

# 基礎看護学

目標Ⅰ. 看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
1 看護の基本となる概念	A 看護の本質	a 看護の定義	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3 「看護の定義」 (p.10~25) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 序章 A 「技術とはなにか」 (p.2~3)
		b 役割と機能	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B 「看護の役割と機能」 (p.27~48)
		c 職業としての看護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2-3 「看護の歴史」 (p.4~10)、第4章 A 「職業としての看護」 (p.138~149)
		d 学問としての看護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2-3 「看護の歴史」 (p.4~10)、A-3-3 「看護の理論家における看護の定義」 (p.13~25)、〔資料1〕「主要な看護理論家の看護概念」 (p.340~345)
		e 看護の変遷	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-2 「看護の変遷」 (p.2~10)、第4章 A 「職業としての看護」 (p.138~149) 看護史 : 第1章 「原始看護と古代看護」 (p.6~25)、第2章 「宗教下における中世の看護」 (p.28~42)、第3章 「わが国における仏教看護」 (p.44~68)、第4章 「近世における看護」 (p.70~97)、第5章 「近代看護の確立と展開」 (p.100~152)、第6章 「第二次世界大戦までの看護」 (p.154~172)、第7章 「今日の看護」 (p.174~216)
	B 看護の対象	a 全体〈whole〉としての人間	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 「看護の対象の理解」 (p.64~91)
		b 成長・発達する存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B 「生涯発達しつづける存在としての人間」 (p.79~86) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~32) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A 「対象の理解：大人になること、大人であること」 (p.4~28)
		c ニーズをもつ存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-3 「看護理論家における看護の定義」 (p.13~25)、第2章 A-5-1 「人間のニード(欲求)に関する理論：マズローの欲求段階説」 (p.77) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A 「ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ」 (p.2~32)
		d 生活を営む存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 C-1 「生活者としての人間：『生活』の4つの側面」 (p.86~91) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 B 「対象の生活：働いて生活を営むこと」 (p.28~40) 社会学 : 第7章 「『働き方』『働かせ方』と健康・病気」 (p.106~120)
		e 適応する存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 A-3-3 「看護理論家における看護の定義」 (p.13~25)、第2章 A-2 「看護の使命と結びつくホメオスタシス」 (p.67~68)、A-3 「『こころ』と『からだ』にかかるストレスの影響」 (p.68~74)
		f 社会・文化的存在	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-1-2 「看護におけるケア」 (p.29~33)、第2章 C-1 「生活者としての人間：『生活』の4つの側面」 (p.86~88)、第7章 8-2 「多文化看護理論」 (p.318~320) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A 「対象の理解：大人になること、大人であること」 (p.4~28)
		g ライフサイクルと発達課題	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第2章 B-2 「心理・社会的側面における発達」 (p.81~86) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 A-1 「ライフサイクルと発達課題」 (p.5~7) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第1章 A-1-2 「発達段階・発達課題」 (p.6~9)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第3章 B-2 「ライフサイクルとアイデンティティ」 (p.73~78) 人間関係論 : 第1章 A-3 「人間関係の発達」 (p.7~11)
	C 健康と生活	a 健康のとらえ方	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B 「健康のとらえ方」 (p.94~102) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A 「成人を取り巻く環境と生活からみた健康」 (p.42~85) 公衆衛生 : 第1章 A-2 「ヘルス(衛生・健康)とはなにか」 (p.15~16) 社会学 : 第5章 A 「健康・病気の見方・とらえ方のうつりかわり」 (p.74~76)、 B 「健康・病気の新しい見方ととらえ方」 (p.76~84)
		b 健康の諸相	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B 「健康のとらえ方」 (p.94~102)
		c 健康への影響要因	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B 「健康のとらえ方」 (p.94~102) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第5章 「健康をおびやかす要因と看護」 (p.170~188)
		d 生活習慣とセルフケア	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-3-4 「生活習慣病対策・健康増進運動における看護への期待」 (p.48)、第2章 C-1 「生活者としての人間: 「生活」の4つの側面」 (p.86~88)、第3章 B-4 「生活と健康」 (p.99~101)、E-5 「健康・生活とQOL」 (p.135) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 A-1-2 「成人のライフスタイルの特徴」 (p.48~54)、第5章 C 「生活行動がもたらす健康問題とその予防」 (p.177~187)、第7章 「慢性病との共存を支える看護」 (p.214~231)
		e QOLの維持と向上	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 E-5 「健康・生活とQOL」 (p.135) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第7章 B-3-3 「生活の質(QOL)」 (p.230) 総合医療論 : 第1章 B-5 「QOL(生活の質)について考える」 (p.23) 公衆衛生 : 第1章 D-2-4 「オタワ憲章——健康は手段か目的か」 (p.37~40) 社会学 : 第5章 B-4 「健康とクオリティオブライフ(QOL)」 (p.79~80)
	D 看護における倫理	a 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第3章 B-1-2 「権利としての健康」 (p.95~96)、 第5章 B-1-1 「インフォームドコンセントの誕生」 (p.186~187) 公衆衛生 : 第1章 C-3 「日本国憲法のなかの公衆衛生」 (p.30~31)、C-4 「日本国憲法と世界人権宣言における健康と人権」 (p.31~32)、第2章 B-1 「看護職は「みんな」の権利をまもる守護神の1人」 (p.47~48) 看護倫理 : 第2章 A 「生命倫理とはなにか」 (p.24~27)
		b 医療の倫理原則	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-2-3 「看護の質保障に欠かせない要件」 (p.37~41)、第5章 C-2 「医療をめぐる倫理原則とケアの倫理」 (p.200~204) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.127~134) 看護倫理 : 第2章 B 「生命倫理の理論」 (p.28~33) 看護情報学 : 第6章 B 「医療倫理」 (p.137~142)
		c 患者の権利と擁護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 B-2-3 「看護の質保証に欠かせない要件」 (p.37~41)、第5章 B-1 「患者の権利とインフォームドコンセント」 (p.186~187)、C-1 「看護の本質としての看護倫理」 (p.199~200) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 B 「患者の権利の尊重」 (p.19) 救急看護学 : 第2章 D-2 「倫理面への配慮」 (p.45~48) クリティカルケア看護学 : 第6章 A-1-2 「権利の擁護」 (p.206) 看護倫理 : 第2章 「生命倫理」 (p.24~40)、第6章 「看護倫理とはなにか」 (p.96~118) 看護情報学 : 第7章 「患者の権利と情報」 (p.144~158)
		d 倫理綱領	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第5章 B-3 「医療専門職の倫理規定」 (p.192~199) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.127~134) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第6章 B-5 「看護職の職業倫理」 (p.172) 看護倫理 : 第7章 「専門職の倫理」 (p.120~136) 看護情報学 : 第6章 「情報倫理と医療倫理」 (p.132~142)
		e 倫理的葛藤と対応	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第5章 B-2 「現代医療におけるさまざまな倫理的問題」 (p.188~192)、C-3 「看護実践場面での倫理的ジレンマ」 (p.204~207) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 F 「看護実践における倫理的判断」 (p.127~134)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
2 看護の展開	A 対象との関係の形成	a 信頼関係	看護倫理：第6章D「看護実践上の倫理的概念」(p.106～114)、E「看護実践と倫理」(p.114～118)、第8章「倫理的問題へのアプローチ」(p.138～162) 看護情報学：第4章B-4「意思決定支援」(p.81～86)
		b 援助関係	人間関係論：第10章「患者を支える人間関係」(p.184～221)
		c 協働関係	成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章B「健康問題をもつ大人と看護師の人間関係」(p.101～107) 社会学：第9章「患者-医療者関係とコミュニケーション」(p.140～153) 人間関係論：第10章「患者を支える人間関係」(p.184～221)
	B 基盤となる思考過程	a 根拠に基づいた看護 (EBN)	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.37～41) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：序章E「看護技術の発展と習得のために」(p.14～15) 看護研究：第1章B-2「最良のケアの追求とEBP」(p.20～22)
		b クリティカル・シンキング	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.37～41) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章B-2「クリティカルシンキング」(p.214～220)
		c 問題解決過程	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章B-2-3「看護の質保障に欠かせない要件」(p.37～41) 基礎看護学 [2] (基礎看護技術 I)：第3章B-1「問題解決過程」(p.211～214)
	C 看護における連携と協働	a 看護の継続性	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章C「看護の継続性と情報共有」(p.48～62)、第6章B-2-3「継続看護」(p.229～232)
		b 看護職間の連携と協働	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章C「看護の継続性と情報共有」(p.48～62)、第6章B-2-3「継続看護」(p.229～232) 人間関係論：第8章B-4「看護師どうしのコミュニケーション」(p.154～157)
		c 多職種間の連携と協働	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章C「看護の継続性と情報共有」(p.48～62)、第6章B-1「看護サービスの担い手とチーム医療」(p.215～217) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章D「チームアプローチ」(p.112～116) 在宅看護論：第4章G「地域における多職種連携」(p.104～109) 社会保障・社会福祉：第8章H「連携の場面とその方法」(p.260～265) 人間関係論：第9章A「医療におけるチームと看護師の役割」(p.162～168)、D「多職種連携に向けて」(p.179～180) クリティカルケア看護学：第6章B-4「クリティカルケア看護にかかわる他職種との連携」(p.218～221) リハビリテーション看護：第1章E-2「連携職種」(p.29～32)、E-3「多職種連携のあり方」(p.32～36) 緩和ケア：第2章D「チームの範囲と各メンバーの役割」(p.22～32) 臨床検査：第2章「臨床検査の流れと看護師の役割」(p.24～58)
		d チームでの活動	基礎看護学 [1] (看護学概論)：第1章C-2「入院中の情報伝達と共有」(p.51～55) 成人看護学 [1] (成人看護学総論)：第3章D「チームアプローチ」(p.112～116) 栄養学：第1章G-2「ニュートリションサポートチーム」(p.12～14) 社会保障・社会福祉：第8章H「連携の場面とその方法」(p.260～265) 人間関係論：第9章「保健医療チームの人間関係」(p.162～181) 緩和ケア：第2章D-3「組織横断的に活動するチーム・メンバーの役割」(p.29～32)

目標Ⅱ. 基礎的な看護技術と適用のための判断プロセスについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
3 看護における基本技術	A コミュニケーション	a コミュニケーションの構造とプロセス	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第1章 B「コミュニケーションの構成要素と成立過程」(p.22~28) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 B-1「医療における人間関係」(p.101~102) 人間関係論 : 第5章 A「コミュニケーションとは」(p.82~84) 緩和ケア : 第4章 A「患者が納得して医療を受けるためのコミュニケーション」(p.54~60) 看護情報学 : 第1章 D「情報の伝達とコミュニケーション」(p.18~21)
		b コミュニケーション技法	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第1章 D「効果的なコミュニケーションの実際」(p.39~52) 人間関係論 : 第5章「コミュニケーション」(p.82~101) 緩和ケア : 第4章 B「意思決定を共有するためのコミュニケーションスキル」(p.60~64)
		c コミュニケーションに障害のある人々への対応	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第1章 E「コミュニケーション障害への対応」(p.52~58) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 B-2「言語障害のある患者の看護」(p.248~252) クリティカルケア看護学 : 第5章 F「コミュニケーション」(p.173~176)
	B 学習支援	a 学習に関わる諸理論	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第4章 A「看護における学習支援とは」(p.278~282) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 A-1-1「大人の学習」(p.91~92)、第10章「学習者である患者への看護技術」(p.274~292) 精神看護学 [1] (精神看護の基礎) : 第3章 A-3「学習と行動」(p.61~64)
		b 対象者に合わせた目標設定	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第4章 D「看護の中に含まれる学習支援」(p.291~319) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 A-1-2「学習に基づく行動形成」(p.92~96)、第10章 A-1「エンパワメントエデュケーションとは」(p.274~278)
		c 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第4章 D「看護の中に含まれる学習支援」(p.291~319) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第10章「学習者である患者への看護技術」(p.274~292)
		d 個別指導・集団指導の特性と適用	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第4章 D「看護の中に含まれる学習支援」(p.291~319) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 A「生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助」(p.90~101)、C「人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ」(p.107~112)、第10章「学習者である患者への看護技術」(p.274~292) 母性看護学 [2] (母性看護学各論) : 第3章 D-1-5「保健相談の方法」(p.129~130)
	C 看護過程	a 情報の種類・収集方法、情報の分析・統合	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 C-1「アセスメント」(p.226~239) 看護情報学 : 第5章 A-2「看護過程による情報処理」(p.90~91)
		b 看護問題の明確化と優先順位決定	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 C-2「看護問題の明確化(看護診断)」(p.239~247)
		c 看護目標の設定と計画	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 C-3「看護計画」(p.247~252)
		d 実施	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 C-4「実施」(p.252~254)
		e 評価	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 C-5「評価」(p.254~256)
	D 看護情報管理	a 医療情報と看護情報	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 D「看護記録」(p.256~262) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 E-3-4「診療記録等」(p.55)
		b 看護における情報管理	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 D「看護記録」(p.256~262) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 E-3「情報の活用」(p.53)
		c 看護情報の記録・報告と共有	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第3章 D「看護記録」(p.256~262) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 E-3-5「看護記録」(p.55) 看護情報学 : 第5章 A-3「看護記録の構成要素」(p.91~94)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
E	フィジカルアセスメント	a 看護におけるフィジカルアセスメントの意義	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第2章 A「ヘルスアセスメントとは」(p.60~64) クリティカルケア看護学 : 第2章 A-1「クリティカルな患者におけるアセスメントの意義」(p.18)
		b 医療面接(インタビュー、問診)	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第2章 B「健康歴とセルフケア能力のアセスメント」(p.64~74)
		c 身体診察(視診、触診、聴診、打診)の基本	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第2章 C-1「フィジカルアセスメントに必要な技術」(p.74~81)
		d 全身の診察(全身の観察、バイタルサイン)	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第2章 C「全体の概観」(p.74~122) 救急看護学 : 第4章 B「全身と外観の観察とアセスメント」(p.103~109)
		e 系統別のフィジカルアセスメント	基礎看護学 [2] (基礎看護技術Ⅰ) : 第2章 D「系統別フィジカルアセスメント」(p.122~194) 救急看護学 : 第4章「救急患者の観察とアセスメント」(p.100~160) クリティカルケア看護学 : 第2章 C「系統別アセスメントの実際」(p.26~37)
F	感染防止対策	a 感染の成立と予防	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 A「感染防止の基礎知識」(p.423~426) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第2章 B-1-2「保健にかかわる対策——健全な生活をはぐくむために」(p.65~72)、第5章 C-7「感染症」(p.185~187)、第11章 B-2-1「感染予防」(p.310~311) 微生物学 : 第6章「感染と感染症」(p.70~94)
		b 標準予防策(スタンダードプリコーション)と感染経路別予防策	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 B「標準予防策(スタンダードプリコーション)」(p.427~435)、C「感染経路別予防策」(p.436~439) 微生物学 : 第12章 C-3-2「標準予防策」(p.208~209)、C-3-3「感染経路別予防策」(p.210) 救急看護学 : 第4章 A「周囲の状況確認と感染予防対策」(p.100~103) クリティカルケア看護学 : 第5章 G「感染予防対策」(p.176~180)
		c 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 B-2-1「手指衛生」(p.427~430)、D「洗浄・消毒・滅菌」(p.439~444)、E「無菌操作」(p.444~452) 微生物学 : 第9章「滅菌と消毒」(p.143~154)
		d 感染性廃棄物の取り扱い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 F「感染性廃棄物の取り扱い」(p.452~453) 在宅看護論 : 第5章 C-5-3「在宅ケアでの諸問題への対応」(p.150~152) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第4章 F-5「廃棄物の取り扱いと管理」(p.120) 微生物学 : 第12章 C-3-2-9「感染性廃棄物の処理」(p.209) 公衆衛生 : 第4章 B-4-3「医療廃棄物」(p.104~105)
		e 感染拡大の防止の対応	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章 A「感染防止の基礎知識」(p.423~426)
G	安全管理(セーフティマネジメント)	a 医療安全の概念と安全管理(セーフティマネジメント)	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第6章 E「医療安全と医療の質の向上」(p.276~287) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第14章「安全確保の技術」(p.461~478) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第3章 E-2「リスクマネジメント」(p.124~125) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C「安全管理」(p.23) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第1章「事故防止の考え方を学ぶ」(p.8~37)、第8章「組織的な医療安全管理体制への取り組み」(p.236~259) クリティカルケア看護学 : 第7章 B「クリティカルケア看護と安全管理」(p.229~235)
		b 誤薬の起こりやすい状況と対策	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第14章 B「誤薬防止」(p.463~469) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C-2-5「対象者の安全確保」(p.32) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 B「注射業務と事故防止」(p.44~68)、E「内服と薬業務と事故防止」(p.96~114) 臨床薬理学 : 第1章 B-3「安全管理」(p.30~35)
		c 転倒・転落の起こりやすい状況と対策	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第14章 E「転倒・転落防止」(p.471~474) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章 C-2-5「対象者の安全確保」(p.32) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第4章 B「転倒・転落事故防止」(p.144~170)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		d チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第14章C「チューブ類の予定外抜去防止」(p.469~470) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第3章A「チューブ管理と事故防止」(p.122~135)
		e 針刺しの起こりやすい状況と対策	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第13章H「針刺し防止策」(p.456~459) 看護の統合と実践 [1] (看護管理) : 第2章C-3「院内感染対策」(p.35) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第7章A「職業感染」(p.218~220)、第8章B-3-3「注射・点滴実施時の間違い」(p.253~254)
	H 安楽の確保	a 安楽の概念	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章B-2-3「看護の質保証に欠かせない要件」(p.37~41) 基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章C「身体ケアを通じてもたらされる安楽」(p.145~150) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第11章B-3-3「苦痛緩和と安楽・安心の促進」(p.315~316)
		b ボディメカニクスの原理と看護実践への活用	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章A「基本的活動の援助」(p.94~126)
		c 安楽な姿勢・体位の保持	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章A-1「基本的活動の基礎知識」(p.94~100)、A-2「体位」(p.100~102)、第5章A「体位保持」(p.138~142) 成人看護学 [1] (成人看護学総論) : 第11章B-3「ポジショニング」(p.314~316)
		d 安楽を提供するためのケア(マッサージ、痛みの軽減、電法)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章「苦痛の緩和・安楽確保の技術」(p.137~150)
		e 安楽を保つための療養環境の調整	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章「環境調整技術」(p.9~24)
	I 終末期のケア	a グリーフケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第15章B「死にゆく人と周囲の人々へのケア」(p.482~487) 在宅看護論 : 第6章B-8「在宅におけるエンドオブライフケア」(p.224~232) 緩和ケア : 第9章D-4「家族・遺族のケア」(p.246)、第11章D「遺族ケア」(p.286~290)
		b 死亡後のケア	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第15章「死の看取りの援助」(p.479~497) 在宅看護論 : 第6章B-8「在宅におけるエンドオブライフケア」(p.224~232)
	4 基本的日常生活援助技術	A 環境の調整	a 環境調整の意義
b 療養環境のアセスメント			基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章A-2「病室の環境のアセスメントと調整」(p.11~17)、B-1「ベッド周囲の環境整備」(p.17~19)
c 療養環境の調整と整備			基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第1章A-2「病室の環境のアセスメントと調整」(p.11~17)、B「援助の実際」(p.17~24)
B 食事と栄養		a 食事と栄養の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章A「食事援助の基礎知識」(p.27~35) 栄養学 : 第1章B「保健・医療における栄養学」(p.8~11)、C「看護と栄養」(p.12~16) 栄養食事療法 : 第1章「栄養食事療法とは」(p.2~11)
		b 健康な食生活と食事摂取基準	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章A「食事援助の基礎知識」(p.27~35) 栄養学 : 第5章B「日本人の食事摂取基準」(p.92~97)、第9章「臨床栄養」(p.186~242) 臨床外科看護総論 : 第3章D-2「栄養状態の評価と栄養療法の選択」(p.116~119) 栄養食事療法 : 第1章A-1「食生活と栄養食事療法」(p.2~3)
		c 治療食、療養食	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章A-2「医療施設で提供される食事の種類と形態」(p.33~35) 栄養学 : 第1章B「保健・医療における栄養学」(p.8~11)、C「看護と栄養」(p.12~16)、第9章C「病院食」(p.190~198)
		d 食事と栄養に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章A「食事援助の基礎知識」(p.27~35) 栄養学 : 第1章C「看護と栄養」(p.12~14)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		e 食事と栄養のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 A「食事援助の基礎知識」(p.27~35) 栄養学 : 第7章「栄養状態の評価・判定」(p.128~146) 栄養食事療法 : 第2章 C「栄養アセスメントの基本」(p.26~30)
		f 食事摂取の自立困難な人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 B「食事介助」(p.35~39) 栄養食事療法 : 第2章 B「栄養補給法」(p.23~26)
		g 嚥下障害のある人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 C「摂食・嚥下訓練」(p.40~47) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 B-9「嚥下障害のある患者の看護」(p.280~286) 成人看護学 [14] (耳鼻咽喉) : 特論「摂食・嚥下障害患者の看護」(p.243~270) 栄養学 : 第9章 F-8「咀嚼・嚥下障害患者の食事療法」(p.230~231) クリティカルケア看護学 : 第5章 M「摂食・嚥下促進」(p.196~199) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5-4「摂食・嚥下障害」(p.168~175)、B-5-3「摂食・嚥下障害」(p.222~224) 栄養食事療法 : 第3章 F「摂食・嚥下障害」(p.40~43)
		h 経管・経腸栄養法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 D-1「経管栄養法」(p.47~54) 成人看護学 [5] (消化器) : 第4章 C-2-2「食事療法・食事指導の概要」(p.124~127) 栄養学 : 第9章 B-1「経腸栄養法」(p.187~188) 臨床外科看護総論 : 第3章 D-3-3「経腸栄養法」(p.120) 栄養食事療法 : 第2章 B-2「経管・経腸栄養法」(p.24~26)
		i 経静脈栄養法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第2章 D-2「中心静脈栄養法」(p.55) 栄養学 : 第9章 B-2「静脈栄養法」(p.188~189) 臨床外科看護総論 : 第3章 D-3-2「静脈栄養法」(p.119) 栄養食事療法 : 第2章 B-3「経静脈栄養法」(p.26) 臨床薬理学 : 第4章 B-2「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」(p.243~251)
	C 排泄	a 排泄の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A-1-1「排泄の意義」(p.59)
		b 排泄に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A-1「自然排尿および自然排便の基礎知識」(p.59~65)
		c 排泄のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A-1-3「観察とアセスメント」(p.62~65)
		d 自然な排泄を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A「自然排尿および自然排便の介助」(p.59~73) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 B-10「排尿障害のある患者の看護」(p.286~291) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5-9「排尿障害」(p.190~192)、A-5-10「排便障害」(p.192~194)、C-5-3「排尿障害」(p.245~248)、C-5-4「排便障害」(p.245~250)
		e トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A-2-1「トイレにおける排泄介助」(p.65~67)
		f 床上での排泄の援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A-2-2「床上排泄援助」(p.67~70)、A-2-3「おむつによる排泄援助」(p.70~73)
		g 自然な排泄が困難な人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 B「導尿」(p.73~80)、C「排便を促す援助」(p.80~86)、D「ストーマケア」(p.86~92)
		h 尿失禁、便失禁のある人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第3章 A「自然排尿および自然排便の介助」(p.59~73) 成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第3章 B-1-3「尿失禁」(p.47~48)、第6章 II-3-4「尿失禁のある患者の看護」(p.216~220)
	D 活動と運動	a 活動と運動の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.94~100)
		b 活動と運動に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.94~100)
		c 活動と運動のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A「基本的活動の援助」(p.94~126)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所	
		d 活動と運動を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A「基本的活動の援助」(p.94~126) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5-2「運動障害」(p.148~164)、C-5-1「運動麻痺」(p.231~244)	
		e 療養生活におけるレクリエーション	社会保障・社会福祉 : 第8章 C「集団援助技術(グループワーク)」(p.236~242)	
	E 休息と睡眠	a 休息と睡眠の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.127~132)	
		b 休息と睡眠に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.127~132)	
		c 休息と睡眠のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B-1「援助の基礎知識」(p.127~132)	
		d 休息と睡眠を促す援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 B「睡眠と休息の援助」(p.127~136)	
	F 清潔と衣生活	a 清潔と衣生活の意義	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-1「清潔の援助の基礎知識」(p.153~158)、B-1「援助の基礎知識」(p.202~204)	
		b 清潔と衣生活に影響する要因	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章 A-1「清潔の援助の基礎知識」(p.153~158)、B-1「援助の基礎知識」(p.202~204)	
		c 清潔と衣生活のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章「清潔・衣生活援助技術」(p.151~211)	
		d 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第6章「清潔・衣生活援助技術」(p.151~211) リハビリテーション看護 : 第4章 A-5「障害とリハビリテーション看護」(p.145~196)、B-5「障害とリハビリテーション看護」(p.201~226)、C-5「障害とリハビリテーション看護」(p.231~259)	
	5 診療に伴う看護技術	A 呼吸・循環、体温調整	a 呼吸・循環・体温調整のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章「呼吸・循環を整える技術」(p.213~259)
			b 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 A「体位保持」(p.138~142)、第7章 B「排痰ケア」(p.220~233) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第6章 B-4「呼吸困難のある患者の看護」(p.239~242) 成人看護学 [3] (循環器) : 第6章 B-4「呼吸困難に対する看護」(p.245~248)
			c 血圧・血流を保持する姿勢	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第4章 A-1「基本的活動の基礎知識」(p.94~100)、第5章 A「体位保持」(p.138~142)、第7章 G「末梢循環促進ケア」(p.255~259)
			d 酸素吸入の適応と方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 A「酸素吸入療法」(p.214~220) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-2「酸素療法」(p.111~114)、第6章 D-2「酸素療法を受ける患者の看護」(p.250~254) 臨床外科看護総論 : 第3章 B-2-1「人工呼吸の目的と適応」(p.106) 救急看護学 : 第6章 C「酸素投与」(p.305~307) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-1「酸素療法」(p.152)
e 口腔内・鼻腔内・気管内吸引の適応と方法			基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B-2-3「吸引」(p.228~233) 救急看護学 : 第6章 F「吸引」(p.314~319) クリティカルケア看護学 : 第5章 B-3「気管吸引の技術」(p.154~155)	
f 排痰法の適応と方法			基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第7章 B「排痰ケア」(p.220~233) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 C-4-2「気道の清浄化」(p.120~121)、第6章 B-1「咳嗽・喀痰のある患者の看護」(p.232~234) リハビリテーション看護 : 第5章 A-6-5「看護」(p.272~280)	
g 体温調整のための方法		基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第5章 B「糞法」(p.142~145)、第7章 F「体温管理の技術」(p.247~255) クリティカルケア看護学 : 第5章 E「体温管理」(p.170~173)		
B 皮膚・創傷管理		a 創傷の治癒過程	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.262~265) 臨床外科看護総論 : 第1章 E「創傷治癒」(p.34~52) 救急看護学 : 第6章 O「創傷処置」(p.351~352) クリティカルケア看護学 : 第3章 I「創傷とケア」(p.98~105)	



大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
		b 創傷のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 A「創傷管理の基礎知識」(p.262~265)、B「創傷処置」(p.266~272) 救急看護学 : 第5章 I-1「筋・骨格系の観察とアセスメント」(p.151~153)
		c 洗浄、保護、包帯法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 B「創傷処置」(p.266~272) 救急看護学 : 第6章 O「創傷処置」(p.351~352)
		d 褥瘡の予防と治癒の促進	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第8章 C「褥瘡予防」(p.277~283) 成人看護学 [7] (脳・神経) : 第6章 B-13「褥瘡の予防と看護」(p.301~306) 成人看護学 [12] (皮膚) : 特論「褥瘡患者の看護」(p.245~266) 臨床外科看護総論 : 第1章 E-7「褥瘡の予防と処置」(p.47~52) クリティカルケア看護学 : 第3章 I-2-2「褥瘡」(p.102) リハビリテーション看護 : 第4章 C-6-1「褥瘡」(p.256~258)
	C 与薬	a 与薬における看護師の役割	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 A-2「看護師の役割」(p.288~290) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 E-2-2「看護業務の視点で内服と薬業務の危険とその要因を知る」(p.101~107) 薬理学 : 第1章 A-3「薬物療法における看護師の役割」(p.7~11) 臨床薬理学 : 第1章 B「患者と薬物治療」(p.23~26)
		b 薬剤の種類と取り扱い方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章「与薬の技術」(p.285~343) 臨床薬理学 : 第1章 A「医薬品の取り扱い」(p.6~23)
		c 与薬方法と効果の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章「与薬の技術」(p.285~343) 臨床薬理学 : 第1章 B「薬物治療の実際」(p.23~33)
	D 輸液・輸血管理	a 輸液・輸血の種類と取り扱い方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-2-4「静脈内注射」(p.320~336)、I「輸血管理」(p.337~343) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第4章 C-5-2「出血とその対策」(p.86~90)、第5章 D-5「輸血療法」(p.187~190) 薬理学 : 付章「輸液製剤・輸血剤」(p.304~316) 救急看護学 : 第6章 H「輸液と輸血」(p.323~326)
		b 輸液・輸血の管理方法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-2-4「静脈内注射」(p.320~336)、I「輸血管理」(p.337~343) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第5章 D-5「輸血療法」(p.187~190) 救急看護学 : 第6章 H「輸液と輸血」(p.323~326)
		c 輸液・輸血の副作用(有害事象)の観察	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第9章 H-2-4「静脈内注射」(p.320~336)、I「輸血管理」(p.337~343) 成人看護学 [4] (血液・造血器) : 第4章 C-5-2「出血とその対策」(p.86~90)、第5章 D-5「輸血療法」(p.187~190) 看護の統合と実践 [2] (医療安全) : 第2章 D-3-1「ABO血液型不適合輸血の初期症状と観察のポイント」(p.93~94) 救急看護学 : 第6章 H「輸液と輸血」(p.323~326)
	E 救命救急処置	a 生命の危機的状況のアセスメント	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 A-2「急変時における初期対応」(p.346~348) 臨床外科看護総論 : 第5章 A-2-1「救急処置法の原則」(p.185~186) 救急看護学 : 第4章「救急患者の観察とアセスメント」(p.100~160) クリティカルケア看護学 : 第2章 C「系統別アセスメントの実際」(p.26~37)
		b 一次救命処置(BLS)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 B-2「一次救命処置の実際」(p.352~361) 臨床外科看護総論 : 第5章 A-1「救急処置の範囲と対象」(p.184) 救急看護学 : 第5章 A-1「一次救命処置(BLS)」(p.164~174) クリティカルケア看護学 : 第5章 A-1「一次救命処置」(p.146~149)
		c 止血法	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第10章 C「止血法」(p.363~366) 臨床外科看護総論 : 第4章 A-4「止血」(p.151~153) 救急看護学 : 第6章 B「止血法」(p.299~305)
	F 生体機能のモニタリング	a 診察・検査時の看護師の役割	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第11章 A「症状・生体機能管理技術の基礎知識」(p.374~375)、第12章「診察・検査・処置の介助」(p.403~420) 臨床検査 : 第2章 A-3「検査における看護師の役割」(p.26~28)
		b 検体検査(血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第11章 B「検体検査」(p.375~402)、第12章 B-8「穿刺」(p.413~420) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 B-1「血液検査」(p.74~76)、B-2「喀痰検査」(p.76~79)、B-4「胸水検査」(p.79~82) 成人看護学 [5] (消化器) : 第4章 B-1「糞便検査」(p.78~81)

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
			成人看護学 [8] (腎・泌尿器) : 第4章 B-1 「尿の検査」 (p.70~74) 臨床検査 : 第3章 「一般検査」 (p.62~86)
		c 生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学)	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第11章 C-1 「心電図検査」 (p.388~391)、C-2 「心電図モニター」 (p.391~393)、第12章 B-1 「X線撮影」 (p.405~406)、B-2 「コンピュータ断層撮影」 (p.406~407)、B-3 「磁気共鳴画像」 (p.407~408)、B-4 「内視鏡検査」 (p.408~410)、B-5 「超音波検査」 (p.410~411)、B-7 「核医学検査」 (p.412~413) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 B-5 「画像診断」 (p.82~89)、B-6 「内視鏡検査」 (p.89~94) 成人看護学 [3] (循環器) : 第4章 B 「検査」 (p.52~81) 臨床検査 : 第10章 「生体検査」 (p.272~333) 臨床放射線医学 : 第1部 「画像検査」 (p.18~168)
		d 経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO <sub>2</sub> ) の測定、血糖測定	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第11章 B-1 「血液検査」 (p.375~382)、C-3 「SpO <sub>2</sub> モニター」 (p.393~396) 成人看護学 [2] (呼吸器) : 第4章 B-8-2 「動脈血ガス分析」 (p.101~108) 成人看護学 [3] (循環器) : 第4章 B-6 「血行動態モニタリング」 (p.74~77) 成人看護学 [6] (内分泌・代謝) : 第4章 B-3-1 「血糖値と高血糖状態の評価」 (p.75~76)
		e モニタリング機器の取り扱い	基礎看護学 [3] (基礎看護技術Ⅱ) : 第11章 C 「生体情報のモニタリング」 (p.387~402) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 付章 B 「測定用医療機器の原理と実際」 (p.352~362)

目標Ⅲ. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	系統看護学講座の該当箇所
6 看護の役割と機能	A 看護の場に応じた活動	a 在宅における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第6章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229) 在宅看護論 : 第1章 「在宅看護の目的と特徴」 (p.10~24)
		b 医療施設における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第6章 B-2-1 「医療施設における看護」 (p.217~222) 基礎看護学 [4] (臨床看護総論) : 第1章 C-2 「病院・施設における看護」 (p.46~51)
		c 保健施設と福祉施設における看護活動	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第6章 B-2-2 「地域における看護」 (p.222~229)
	B 保健・医療・福祉の連携と継続看護	a 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割と機能	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C-4 「多職種チームとしての情報共有と継続的にかかわり」 (p.56~59)、C-5 「在宅療養を可能にする連携と継続的にかかわり」 (p.60~62) 在宅看護論 : 第4章 F 「ケアマネジメントと社会資源の活用」 (p.100~104)、G 「地域における多職種連携」 (p.104~109)
		b 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C-4 「多職種チームとしての情報共有と継続的にかかわり」 (p.56~59)、C-5 「在宅療養を可能にする連携と継続的にかかわり」 (p.60~62) 在宅看護論 : 第1章 B-2 「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」 (p.20~23) 社会保障・社会福祉 : 第8章 F 「連携の重要性」 (p.249~253)、G 「社会福祉実践と医療・看護との連携」 (p.253~260)、H 「連携の場面とその方法」 (p.260~265)
		c 施設内・施設間における継続看護	基礎看護学 [1] (看護学概論) : 第1章 C 「看護の継続性と情報共有」 (p.40~53)、第6章 B-2-3 「継続看護」 (p.211~213) 在宅看護論 : 第1章 B-2 「対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供」 (p.20~23)